

2010 年 7 月 8 日
株式会社みずほコーポレート銀行

インド送電線事業に対するプロジェクトファイナンスへの参加について

～国際金融公社の通貨スワップを活用した初のリスクパートイン案件～

株式会社みずほコーポレート銀行（頭取：佐藤康博）と国際金融公社（International Finance Corporation、以下「IFC」という）の2行は、このたび、インド タタ・グループの中核会社タタ・パワー・カンパニー・リミテッド（Tata Power Company Limited）および国営送電線会社パワー・グリッド・コーポレーション・オブ・インド（Power Grid Corporation of India）が出資したパワーリンクス・トランスミッション・リミテッド（Powerlinks Transmission Limited、以下「PTL」という）が行う送電線事業に対する参加契約に調印しました。

本プロジェクトは、ブータン王国のタラ水力発電所により発電される電力を、インド東部の西ベンガル州シリグリ市からインド北部デリー近郊のウツタル・プラデーシュ州マンドラ市間、全長 1,166km にかけて送電するインド初の B00T（*）ベースの PPP（**）送電線事業で、2006 年 9 月に完成、現在商業運転中のものです。

本件は、IFC が PTL 向けに実行したインドルピー建ローンの一部（30 百万米ドル相当）について、海外民間金融機関として初めて米ドル建でプロジェクトファイナンスに参加したものです。これまで、インドのインフラ案件は、インドルピー建のファイナンスが主流であり、海外民間金融機関の参入は難しい状況でした。IFC が通貨スワップ契約を活用することにより米ドル建のファイナンスとして初めて参入が可能となったものです。

同スキームは、地場通貨建のファイナンスが主流であるインドのインフラ案件に対する海外民間金融機関の参入を促進するものであり、今後の活用が強く期待されます。インドにおけるインフラ整備事業については、今後、更なる投資が見込まれており、当行と IFC は、引続き高度な金融ノウハウを活用し、同国におけるインフラ整備事業を積極的に支援していきます。

以 上

(*) BOOT とは Build, Own, Operate and Transfer の略。公共社会資本を整備する際に、民間部門が建設、所有、運営を行なうが、最終的には形成された社会資本の所有権を公的部門に移転する事業形態です。

(**) PPP とは Public & Private Partnership の略。英国をはじめ世界各国で進められている政策手法で、公共と民間のパートナーシップで社会資本の整備を進めようとするものです。

<ファイナンススキーム>

